

経営比較分析表（平成28年度決算）

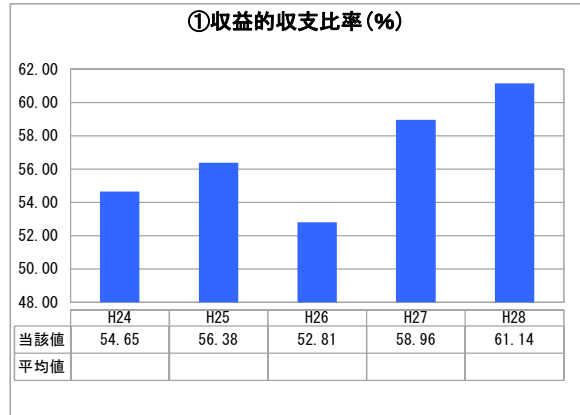
北海道 占冠村

| 業務名 | 業種名 | 事業名 | 類似団体区分 | 管理者の情報 |
|-----------|-------------|--------|--------|--------------------------------|
| 法非適用 | 下水道事業 | 個別排水処理 | L3 | 非設置 |
| 資金不足比率(%) | 自己資本構成比率(%) | 普及率(%) | 有収率(%) | 1か月20m ³ 当たり家庭料金(円) |
| - | 該当数値なし | 33.67 | 100.00 | 2,530 |

| 人口(人) | 面積(km ²) | 人口密度(人/km ²) |
|------------|--------------------------|-------------------------------|
| 1,258 | 571.41 | 2.20 |
| 処理区域内人口(人) | 処理区域面積(km ²) | 処理区域内人口密度(人/km ²) |
| 405 | 0.04 | 10,125.00 |

| グラフ凡例 | |
|-------|--------------|
| ■ | 当該団体値(当該値) |
| — | 類似団体平均値(平均値) |
| [] | 平成28年度全国平均 |

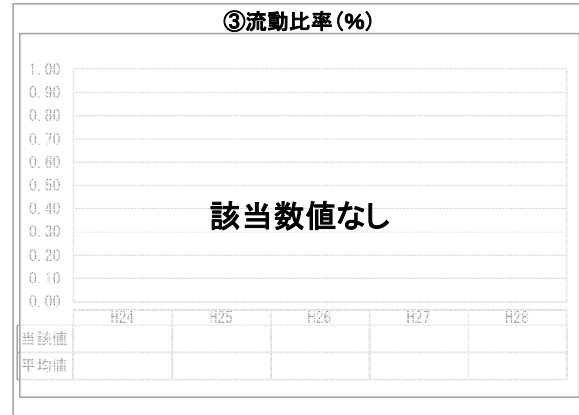
1. 経営の健全性・効率性



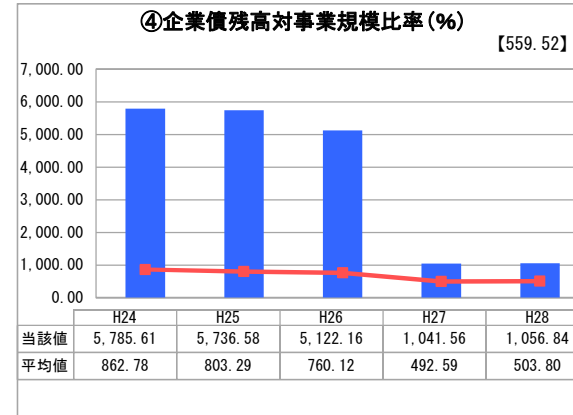
「単年度の収支」



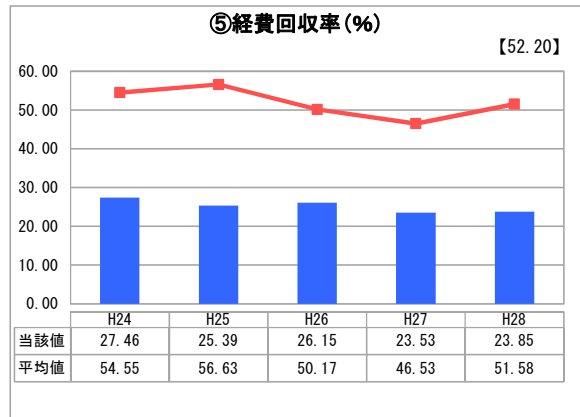
「累積欠損」



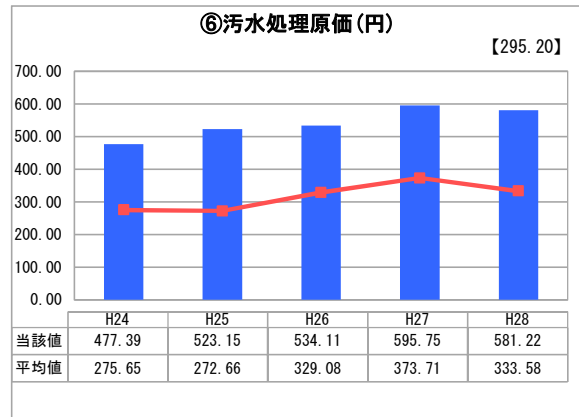
「支払能力」



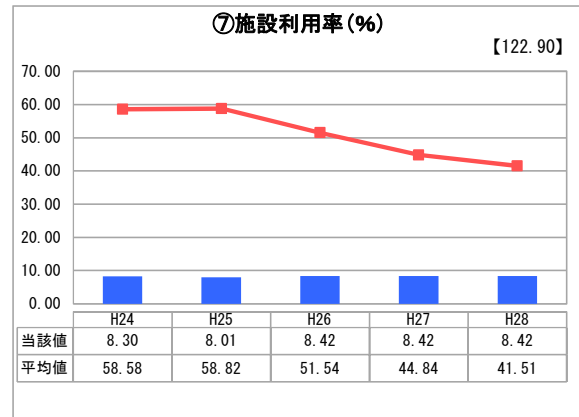
「債務残高」



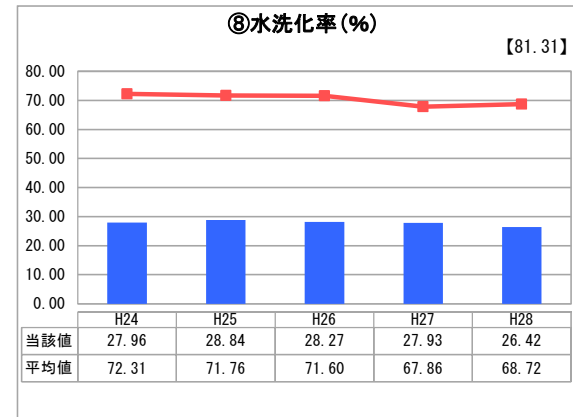
「料金水準の適切性」



「費用の効率性」

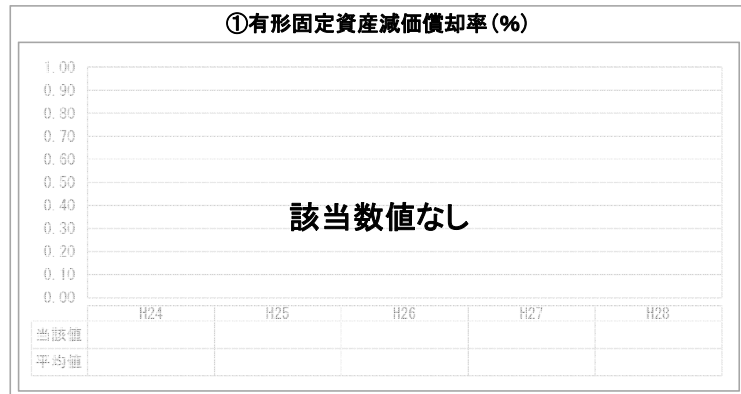


「施設の効率性」

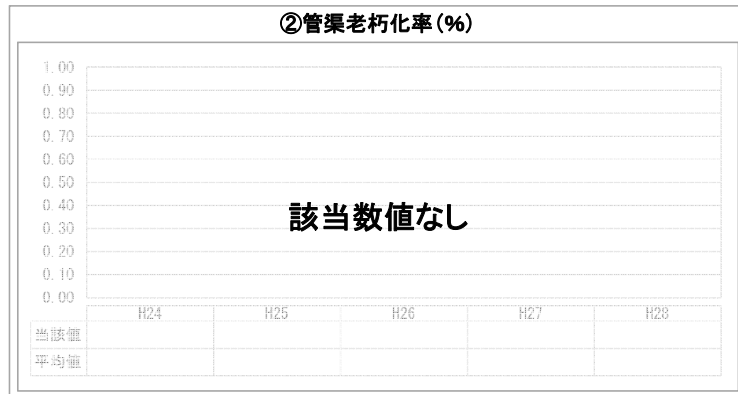


「使用料対象の捕捉」

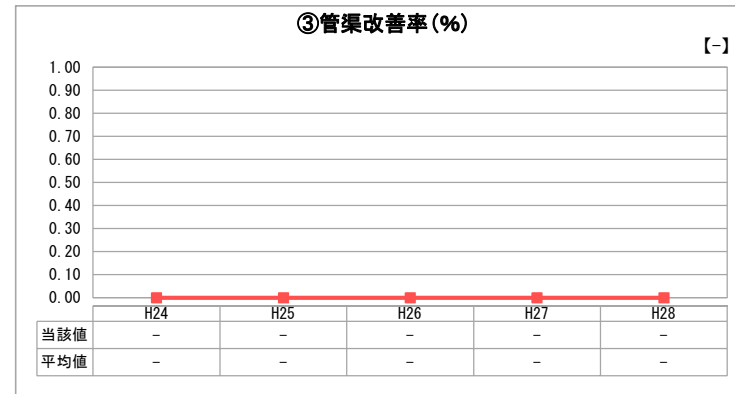
2. 老朽化の状況



「施設全体の減価償却の状況」



「管渠の経年化の状況」



「管渠の更新投資・老朽化対策の実施状況」

分析欄

1. 経営の健全性・効率性について

使用料は下水道使用料と同額としているので安く設定されており、一般会計繰入金で不足分を補てんしている。下水道処理区以外での施設管理となっているので、範囲が広く効率性は悪い。

2. 老朽化の状況について

比較的新しい施設のため特段対策していないが、今後高齢化及び人口減少による廃止、休止対策が必要が考えている。また、ダイヤフラムポンプの計画的更新が必要となる。

全体総括

今後の経営戦略の分析結果を踏まえ、使用料の増額の検討や維持費の効率化の実施を行うことが必要である。

※ 法適用企業と類似団体区分が同じため、収益的収支比率の類似団体平均等を表示していません。

※ 平成24年度から平成25年度における各指標の類似団体平均値は、当時の事業数を基に算出していますが、企業債残高対事業規模比率及び管渠改善率については、平成26年度の事業数を基に類似団体平均値を算出しています。